

衣料管理士養成のための

# アパレル生理衛生論セミナー ご案内

日頃は衣料管理士（TA）教育にご協力賜り御礼申し上げます。

さて、日本衣料管理協会（以下、協会）では、平成28年3月に「アパレル生理衛生論」のテキストを出版いたしました。本書は、協会が認定する衣料管理士1・2級資格取得者の必修授業科目である「アパレル生理衛生論」（2単位）用のテキストとして書き下ろされたものです。

近年、私たちを取り巻く生活環境は、急激な技術革新や産業構造、人口構成の変化の中で大きく変化し、超高齢社会、生活圏の拡大、レジャースポーツの振興、環境問題等、多様な課題を抱えています。このような中で、アパレルに対する消費者ニーズも、「快適性」「機能性」「安全性」など、「健康」への志向が上位を占めるようになりました。これに応えるべく、「アパレルが健康に及ぼす影響や、健康増進に果たす役割を、人体生理の視点から捉え、人類の福祉に貢献するアパレルの提案」を究極の目的とした「アパレル生理衛生論」が、TA制度発足以来、TA1・2級資格取得者の必修授業科目であることはご承知の通りです。アパレル製品を企画から生産・流通・消費の各段階で取り扱う、しかも責任ある立場のTA資格取得者には、本科目を通して、健康の視点から、人体とアパレル設計の関係に関する基礎知識を正しく理解し、製品の適否を判断する力、消費者に適正なアドバイスができるような応用力を修得してほしいと願っています。

一方、TA養成の現場からは、「アパレル生理衛生論」の授業を専門に担当できる人材が少ないという声があります。このような現状に鑑み、隣接分野の担当者であっても、本テキストを使用して研修していただき「アパレル生理衛生論」の授業を担当できるようにすることを一つの目的として、表記セミナーを開催することになりました。

TA養成にあたる皆様の資格取得、また、現在社会で活躍しているTA・TES資格取得者のブラッシュアップの場としても、皆さまの奮ってのご参加をお待ちしております。

## 「アパレル生理衛生論セミナー」実施要項

開催日時：平成28年11月12日(土) 13:00～17:20

11月13日(日) 9:30～17:30 <<2日間>>

会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館） 7階「鳥海」

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 ☎ 03-3261-9921

参加費：10,000円（テキスト代・消費税込）

定員：20名（先着順）

テキスト：アパレル生理衛生論

## プログラム

第一日目 11月12日（土）

時間	テーマ
13:00~13:30	<b>開会・オリエンテーション</b> 講師：田村照子（文化学園大学 名誉教授）
本セミナー開催の目的と内容の概要を説明するとともに、アパレルの機能、ヒトがなぜ衣服を着るようになったのか、歴史的に見る衣服と健康の関係、健康の定義とアパレルの快適性との関連、アパレル開発における快適性・機能性の評価方法など、「アパレル生理衛生論」の序論を述べる。	
13:30~15:00	<b>体温調節</b> 講師：田村照子（文化学園大学 名誉教授）
様々な気候環境に適した快適なアパレルの設計・選択。その基礎は、ヒトの体温調節反応を理解することである。ここでは、まず、人体と環境間の熱移動、産熱と放熱のバランスについて整理し、次に、体温・皮膚温・エネルギー代謝・発汗など、体温調節反応の特性と測定方法、体温調節とアパレルの快適性の関係等について解説する。	
15:20~16:20	<b>衣服内気候の形成</b> 講師：小柴朋子（文化学園大学 教授）
衣服を着用すると人体の周りには外界と異なる環境が作られ、最内層の空気層は衣服着用時の人の温熱的快適感を左右する。ここでは、布地を通しての熱と水分の移動について概説し、さらに衣服の形態・着装など衣服内気候の形成に関わる要因について解説する。	
16:20~17:20	<b>熱・蒸発抵抗の評価と応用</b> 講師：田村照子（文化学園大学 名誉教授）
夏は熱中症、冬は冷え性や低体温症などの健康障害が多発し、クールビズやウォームビズなどアパレルによる暑熱や寒冷への予防と対策に関心が寄せられている。このようなアパレル製品の開発には、製品の熱抵抗や、汗の放散を中心とした蒸発熱抵抗の評価が必須である。ここでは、これらの単位とサーマルマネキンなどによる評価方法、及び気候、季節に応じたアパレルの条件等について解説する。	

## 修了証明書

セミナー終了後、ご参加の皆さまには修了証明書を発行します。

## 第二日目 11月13日(日)

時間	テーマ
09:30~11:00	<b>衣服圧の発生要因と測定</b> 講師：諸岡晴美（京都女子大学 教授）
<p>重いアパレルは肩が凝り、ゆとりが少なく伸びにくいアパレルは動きにくい。特に、筋力の弱い乳幼児や高齢者などでは、わずかな外力でも身体の動きが拘束される場合がある。ここでは、身体拘束の指標としての衣服圧の発生要因と、種々の衣服圧測定方法およびその特徴について、また動作に伴う身体変形と運動機能性について概説する。</p>	
11:10~12:10	<b>衣服圧の影響と利用</b> 講師：諸岡晴美（京都女子大学 教授）
<p>過度な衣服圧は健康被害をもたらす一方、適切な部位への適度な衣服圧は、生活の質の向上につながる。ここでは、胴・腹部圧迫および脚部圧迫が人体に及ぼす影響（力学的影響、自律神経活動への影響、皮膚圧反射および中枢神経系への影響など）について述べるとともに、「健康・快適」を訴求したアパレル開発について概説する。</p>	
13:00~14:30	<b>皮膚の構造と役割・下着の機能</b> 講師：成瀬正春（金城学院大学 教授）
<p>皮膚は、身体の最外面に位置する組織である。下着は衣服の最内面に位置し、絶えず皮膚と接触している。下着は、身体からの汗や汚れを吸収して皮膚を清潔に保つ。ここでは、皮膚の構造と役割、下着の種類と役割、下着の具備すべき条件について、生理的および衛生的な視点から解説する。</p>	
14:50~15:40	<b>皮膚障害、衣服による皮膚の防護</b> 講師：成瀬正春（金城学院大学 教授）
<p>衣服の着用によって皮膚障害をもたらすことがある。衣料障害の中には、物理的有害や、化学的有害、生物学的有害がある。これらの有害と防護について解説する。また、暑さ寒さからの防御、機械的外力からの防御、花粉やウィルスからの防御についても解説する。</p>	
15:50~16:40	<b>高齢者の衣服</b> 講師：小柴朋子（文化学園大学 教授）
<p>高齢社会が進む現在、高齢者について知り、高齢者に合った衣生活を提案することが求められている。高齢化に伴う体型の変化や特徴、高齢者の感覚や体温調節機能など生理的特徴について解説し、また高齢者の心理とおしゃれについてファッションセラピーなど例をあげて説明する。さらに、高齢者の特徴を考慮した衣服の具体例について説明する。</p>	
16:40~17:10	<b>質疑応答・閉会</b>

## 交通案内



アルカディア市ヶ谷 〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25 Tel.03-3261-9921

### アルカディア市ヶ谷（私学会館）へのアクセス

東京メトロ有楽町線・南北線 市ヶ谷駅（1またはA1出口）徒歩2分

都営地下鉄新宿線 市ヶ谷駅（A1またはA4出口）徒歩2分

JR中央線（各駅停車）市ヶ谷駅 徒歩2分

## お申し込み方法

- ①参加者氏名
- ②勤務先（大学）名、学部・学科名
- ③役職（教授・准教授・講師等）
- ④連絡先（自宅または勤務先）
- ⑤連絡先住所
- ⑥連絡先電話番号を明記のうえ、別紙の「お申込書」をFAXまたは郵送にてお送りいただくか、Eメールにてお申し込みください。

お申込みいただきました方には、参加費のご請求書、当日のご案内について郵送させていただきます。

### 本セミナーおよびテキストに関するお問い合わせ先

一般社団法人日本衣料管理協会 事務局

TEL:03-3437-6416 FAX:03-3437-3194

✉ [jasta@mtb.biglobe.ne.jp](mailto:jasta@mtb.biglobe.ne.jp)